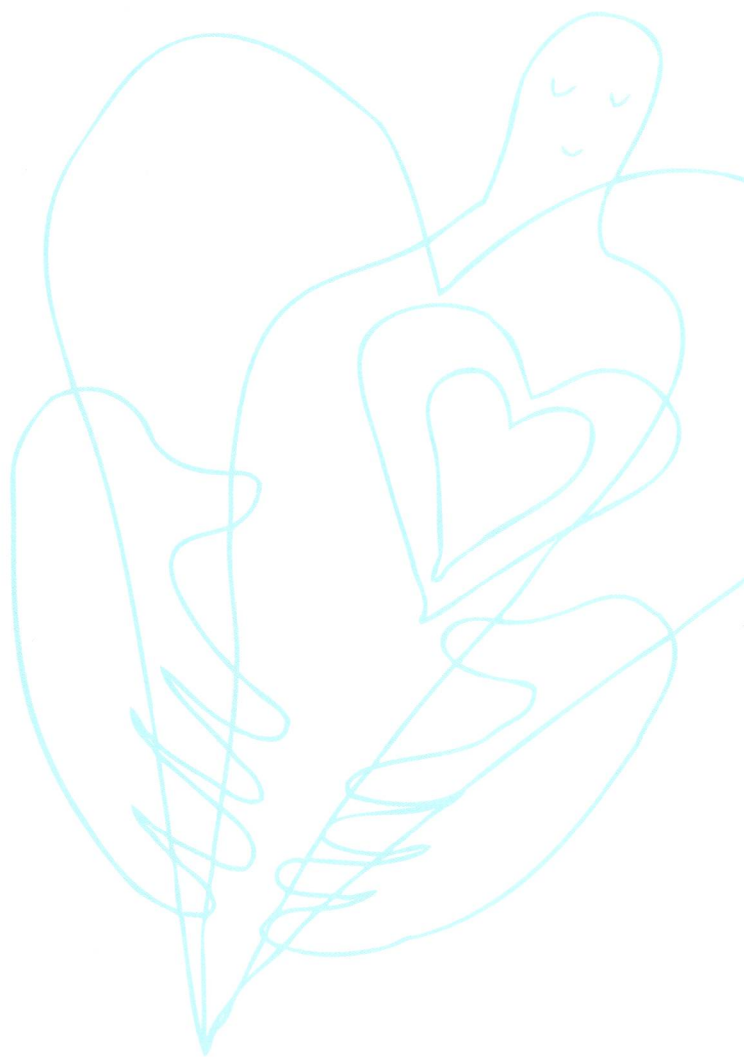


文部科学省私立大学
戦略的研究基盤形成
支援事業採択



本年度最初のニュースレターをお届けいたします。

2003年に初めて甲南大学人間科学研究所の

ニュースレターを発行してから、ついに20号に達しました。

これもひとえにみなさま方のご支援・ご協力のおかげと研究所員
一同感謝しております。

今後ともご指導の程宜しくお願い致します。

今回は、昨年好評を博したプロジェクト2公開研究会と、
アートグループワークショップの報告を掲載いたしました。

7月24日には、第10回公開シンポジウムを開催いたします。

テーマは「父親の子育て 母親の子育て」です。

みなさまのご参加をお待ちしています。





活動報告

プロジェクト2では、「育てることの危機と子育て意識の多相性についての研究」の一環として「障害・病理等を抱えた育てることの研究」を行っている。今回は京都女子大学の河崎佳子氏をお招きして、まず聴覚障害児をとりまく状況、そして聴覚障害児を持つ親の困難についてご講義いただき、支援のあり方について参加者で議論を深めた。

聴覚障害児にとって大きな問題はコミュニケーションであり、歴史的に「言葉」、「日本語教育」、「補聴」、「言語教育」を主眼とした支援がなされてきた。教育現場では手話より口話（口の形を読み音声言語を用いる会話）を目指してきた経過があり、手話は一段低い言語として扱われてきた。しかし、手話は聴覚障害者にとって自然発生的に生まれてくるものである。人は言語で思考し、発達することを考えれば、音声による言語を押し付けることは聴覚障害者の心の発達、心の体験に影響を及ぼすものではないだろうか。河崎氏はこのように問題提起され、まず、ご自身の臨床経験からの気づきとして以下の5つについて述べられた。

- ① 聴覚障害児の教育における健聴モデルの大きさ
障害を持つ子どもの教育機関の中で、聾学校にだけ幼稚部があり、その教育目標は口話を獲得して普通学校に行くことである。
- ② 聴覚障害児が空想に生きる時間の長さ
視覚だけ、または聴覚による断片的な情報しか得られないため、聴覚障害児は想像や空想で補わねばならない部分が非常に多く、空想の世界で生きる時間が長くなる。
- ③ 親子関係における課題
家族の中できこえる人はお世話する人、きこえない人はお世話される人という構図がしやすい。そのため、聴覚障害児の対人関係はお世話する人のフィルターを通して行われることになり、自立が妨げられやすくなる。
- ④ 手話に出会う体験がもたらす影響
手話に出会うと、思うままに表現でき、相手の表現も完全に理解できるようになる。新鮮な感動を味わい世界も広がるが、その分、これまでそういう世界が奪われていたことへの怒りも募る。そして、その怒りは親に向かいやすい。
- ⑤ きこえない人の記憶・思考様式の特徴
健聴者は音声言語で思考するが、聴覚障害者は映像で記憶し、映像で思考する。

これらの点をふまえ、軽・中度難聴者の「きこえ」と心理的体験について考えるとどうだろうか。彼らはある程度きこえるが故に周囲からも自らも障害認識が難しく、幼い頃から健聴者と同じようにやるために非常な努力を強いられる。そして、その努力にも拘わらず健聴者のようにはやれないということに自尊感情が傷つきやすい。河崎氏は「全部分かる」体験、つまり手話を使ったコミュニケーションがその支援に重要であると強調される。音声言語でなくても「言葉」が自在に使えれば、彼ら分かること、できることの範囲が大きく広がり、心の体験について話し合うこともできるのだ。

聴覚障害児の心の体験を知ることは、親の支援にもつながっていく。手話を使って身体でコミュニケーションができれば、心の基礎を築く時期にしっかり親子関係を持つことができるからだ。「全部分かる」体験を通して人と関係を築くことを支える、そういう支援が必要とされていると言えるだろう。

2000年に始まった新生児聴覚スクリーニングは、現状、精密検査まで

第51回公開研究会

先天性聴覚障害の子どもを持つ親の支援を考える

甲南大学人間科学研究所 聴覚障害研究会
5月11日(水) 第51回公開研究会の報告と子育て支援のあり方について

先天性聴覚障害の子どもを持つ親の支援を考える

開催日：2010年2月22日(月) 16:30～18:30
場所：甲南大学18号館 講演室
講師：河崎 佳子 (京都女子大学現代社会学部/臨床心理学)
企画・司会：高石 恭子 (甲南大学文学部/臨床心理学/学生相談)

<対象> 聴覚障害、教育、福祉、医療従事者等に対しては聴覚検査が実施でき、
またはその実践に理解が深い専門家、学生(大学院生、大学生)

近年、日本にはじめて新生児聴覚スクリーニングが行われるようになった。先天性聴覚障害の早期発見・早期療育の重要性が広く認識されるようになった。また、人工内耳(人工耳)の移植手術が導入されたことで聴覚障害の軽減が期待される。聴覚障害の早期発見と療育の重要性が、社会生活の場でも重視されるようになってきた。

しかし、聴覚障害は、聴覚だけでなく言語にも深く関係している。言語の習得には、聴覚だけでなく視覚や触覚も重要な役割を果たしている。聴覚障害児は、聴覚だけでなく視覚や触覚も重要な役割を果たしている。聴覚障害児は、聴覚だけでなく視覚や触覚も重要な役割を果たしている。

河崎佳子(河崎)先生は、聴覚障害児の教育・療育に詳しい。聴覚障害児の教育・療育に詳しい。聴覚障害児の教育・療育に詳しい。

※ 聴覚障害児の教育・療育に関する最新情報
※ 聴覚障害児の教育・療育に関する最新情報
※ 聴覚障害児の教育・療育に関する最新情報

<お申し込み方法>
お申し込みは、必ずお電話にて。
お申し込みは、必ずお電話にて。
お申し込みは、必ずお電話にて。

人間科学研究所
〒612-8502 京都府八幡市甲南
TEL: 075-851-5500
FAX: 075-851-5501
E-mail: info@hokan.ac.jp
http://www.hokan.ac.jp

日時：2010年2月22日(月) 16:30～18:30
場所：甲南大学18号館3階 講演室
講師：河崎 佳子
(京都女子大学現代社会学部/臨床心理学)
企画・司会：高石 恭子
(甲南大学文学部/臨床心理学・学生相談)

3～4か月待ちという状態だという。開始時にはその間の親への具体的・心理的支援は全く考えられておらず、今も事態が改善されているとは言い難い。早期に障害を発見できるようになった今だからこそ、今まで見過ごされてきた聴覚障害児自身の心の問題、また、子どもとコミュニケーションが取れないことで保護者が抱える子育ての困難について積極的に理解し、支援していかねばならない。

この他にもプロジェクト2では、育てる意識について多様な視点から研究を進めている。今年度は特に「健全な分離」、「父親の意識と役割」に焦点を当て、『父親の子育て・母親の子育て—自立する親と子のための健全な分離とは—』というテーマで7月24日(土)に公開シンポジウムを行う。是非ご参加いただきたい。

プロジェクト4 心理療法の現在に関する検証
—臨床と研究の即応的関係の構築—
第1回アートセラピーワークショップ
認知症ケアのためのアート
—アートセラピーの視点と技法をとり入れて—



今井真理先生

日 時：2010年3月6日(土)
場 所：甲南大学18号館3階 講演室
講 師：今井 真理
(芸術療法士・四天王寺大学講師)
企 画：内藤あかね
(甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員)



参加者によるマーブリング風景

去る3月6日(土)の午後、2時間の予定で第1回アートセラピーワークショップを開催した。講師にはプロジェクト3の客員特別研究員に名を連ねておられる四天王寺大学の今井真理先生をお招きし、「認知症ケアのためのアート～アートセラピーの視点と技法をとり入れて～」と題して講演と実技指導をして頂いた。当初定員25名を想定していたが、申込者が多く10名ほどオーバーしての参加者を見込むことになった。参加対象は専門家から一般の方までと広く考えていたが、介護関係者を筆頭に専門職の方が多く来場くださった。

まず初めに今井先生によるご講演があり、老人保健施設におけるグループ・アートセラピーに参加する過程で、グループの内外で行動やコミュニケーションの内容に変化のあった事例が紹介された。引き続き「初級編」として3種類の課題、「マーブリング」、「デカルコマニー」、「粘土」を参加者に体験していただいた。実習中折に触れ、実践上の注意事項の説明が今井先生からなされた。マーブリングの実習では用意した紙の表面が滑らか過ぎて絵の具が定着しないというハプニングもあったが、参加者からの助言により、用紙を画用紙に変更するという工夫がなされた。これは、アートセラピーの実践には画材の選択や準備が重要ということを参加者に実感していただくよい機会になった。

「デカルコマニー」とは画用紙を二つ折りにして片面に絵の具を載せ、左右対称の絵ができるという技法である。今回は、認知症の老人が制作しやすいということで、チューブから直接紙に描くという方法を実習した。八つ切りの色画用紙を使ったので、後で端を切り落としたりパウチ加工したりすればランチョンマットに仕上げることができる。自分の作品を生活の中で利用することは、認知症の方にとって治療的であろう。粘土は自由制作で、参加者が楽しみリラックスして終われるよう今井先生から声掛けがあった。用意した軽量粘土は柔らかく気持ちのよい質感で、絵の具を混ぜればパステル調のきれいな発色をする。参加者たちは、それぞれ楽しんで粘土をこねながら制作に熱中していた。

今回のワークショップで今井先生が指摘されていたことの一つは、現場で働く人たちの心身の疲労問題であり、参加者が自らを癒す機会にできるよう何度も声掛けをしておられた。まずはケアに当たる介護職の方がアートセラピーを体験し、ポジティブな経験をするることによって、実践が可能になるということであろう。それだけでなく、認知症の人々とのアートセラピーにおいては、安全で支持的な雰囲気を作り出すこと、限定された能力に対応しながらも集中し楽しんで制作できる課題を設定し、達成感が感じられるようグループを運営していくことが重要であると帰結できよう。

ワークショップ終了後のアンケートを見ると概ね好評であり、「初級編」の続編を希望される声も多かった。今後もアートセラピーの普及に向けて、企画を考えていきたい。



デカルコマニーの体験風景

これまでの活動

公開研究会

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育て意識の多相性についての研究

第51回 公開研究会

「先天性聴覚障害の子どもを持つ親の支援を考える」

開催日：2010年2月22日（月）

場所：甲南大学 18号館 3階講演室

講師：河崎 佳子（京都女子大学／臨床心理学）

企画：高石 恭子（甲南大学／臨床心理学・学生相談）

研修会

第7回 KIHS 心理臨床ワークショップ

「K式発達検査を臨床に活かす」

開催日：2010年2月21日（日）

場所：甲南大学 18号館 3階講演室

講師：大島 剛（神戸親和女子大学／臨床心理学）

企画：森 茂起（甲南大学・人間科学研究所／臨床心理学）

共催：甲南大学心理臨床カウンセリングルーム

後援：兵庫県臨床心理士会

対象：臨床心理士もしくは心理臨床業務に携わる方

第1回 KIHS アートセラピーワークショップ

開催日：2010年3月6日（土）

場所：甲南大学 18号館 3階講演室

講師：今井 真理（四天王寺大学／芸術療法）

企画：内藤あかね

（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム／臨床心理学）

公開講座

プロジェクト2. 育てる関係の危機と子育て意識の多相性についての研究

子育て応援講座

「子どもはどうしてくっつくの？～心の安全基地になるために～」

開催日：2010年6月3日（木）

場所：甲南大学 18号館 3階講演室

企画・講師：北川 恵（甲南大学／臨床心理学）

これからの活動

公開研究会

第52回公開研究会

「芸術療法と芸術学の対話」

第1回 アートセラピー黎明期のアメリカの例に学ぶ

開催日：2010年6月19日（土）14:00～18:00

場所：甲南大学 18号館 3階 講演室

研究報告：

内藤あかね

（甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員／臨床心理学）

「米国芸術療法史上のパイオニア：マーガレット・ナムブルク」

川田都樹子（甲南大学部学部教授／芸術学）

「ジャクソン・ポロック＜心理分析的ドローイング＞をめぐる諸問題」

※参加費無料・参加申込不要

公開シンポジウム

心の危機と臨床の知 第10回公開シンポジウム

「父親の子育て・母親の子育てー自立する親と子のための健全な分離とはー」

開催日：2010年7月24日（日）13:00～17:30

場所：甲南大学 5号館 511 教室

シンポジスト：大日向雅美（恵泉女子学園大学／発達心理学）

新道 賢一、濱田 智崇、川口 彰範

（甲南大学／臨床心理学）

中里 英樹（甲南大学／家族社会学）

根ヶ山光一（早稲田大学／発達行動学）

指定討論：穂刈 千恵（山王教育研究所／臨床心理学）

司会：高石 恭子（甲南大学／臨床心理学・学生相談）

主催：甲南大学人間科学研究所

後援：兵庫県

参加方法：参加無料・事前申込制（定員 300名）

託児室あり（1名につき 500円）

メールにて下記アドレスにお申し込みください。

件名を「公開シンポジウム参加申込」とし、

①参加者氏名、②ご住所、③年齢、④職業、

⑤託児希望の有無（お子様のお名前、性別、月齢）

をご記入の上、お送りください。

khs_info@yahoo.co.jp 【締切：7月10日（土）】

※参加の可否は後日メールにてご連絡いたします。

※携帯からお申し込みの場合は、上記アドレスの

受信許可設定をお願いいたします。

発行年月日：2010年6月15日

編集後記

新年度がはじまりました。草木が芽吹く季節にもかかわらず、今年は天候不順がつづいています。このニュースレターがみなさまのお手元にとどくころには、新緑の美しい季節がやってくることを願ってやみません。

KIHSでは2名のリサーチアシスタントの新旧交代を迎えました。新しい芽が実になるように、研究所の活動をさらに充実したものにしていける所存です。ご支援のほどよろしくお願い致します。

